

事例② 5歳児クラス・4月～3月

ねらい「年長児としての自覚を育みながら、他児への思いやりや見通しをもった生活をする」

「子どもたちがつくる園生活 — 当番活動で育まれる自信の芽 —」

子どもの姿

5歳児クラスに進級した子どもたちにとって、これまで年長児が行っていた当番活動は、ずっとやってみてきた憧れの活動でもあります。「赤ちゃんをトントンしてあげたい」「給食うまくよええるかな」。子どもたちは、乳児のお世話や給食当番、動植物の飼育など、さまざまな役割を担いながら、遊びの中だけでは出会えなかった園内の様々なひとやものと出会います。あたたかい関わりの中で、自分のできることが増える喜びを感じたり、だれかの役に立ってうれしい気持ちを味わったりしています。

子どものあそびや経験

■「～やってみたい」乳児クラスのためのお手伝い



行動・発言

5歳児クラスになってすぐの頃から、乳児クラスの職員に「おもちゃ拭きをやりたい」「赤ちゃんと遊んであげたい」と意見を伝える5歳児の姿がありました。

昼食後、毎日3人程度が乳児クラスのお手伝いを始めました。お手伝いの内容は、乳児のおやつのエプロンを分ける、玩具の清掃や片付け、床の雑巾がけ、水道のブラシかけなど様々です。

初めてのお手伝いにわくわくした表情で挑戦する子どもたち。「赤ちゃんの寝かしつけの時にぬいぐるみ持っていったいい？」

経験を重ねるうちに、乳児さんのことを思いやり、自分なりに工夫しようとする姿も見られるようになりました。

行動・発言

異年齢で取り組む給食では、5歳児さんがリーダーとなり進めています。「もっと多くして」「これはちょっとだけにして」器に盛りつける係の子は、そんなお友達の声を聞き取りながらよそってくれていました。

3歳児さんが配るのに戸惑っていると、「私がやるよ」と声を掛け、役割を引き継いでくれる頼もしい姿も見られました。

時には、子ども同士の「やりたい」が重なってしまうことがありましたが、子ども達同士で話し合い、アイデアを出して解決したり、ゆずってあげたりと、思いを調整していく姿が見られました。

■3～5歳の異年齢グループで行う給食当番



ポイント

■子どもたちの「やってみたい」を引き出す工夫



◎配慮事項（環境構成、保育者の関わりなど）

◎大人主導の活動にならないように…

- ・子どもたちが自分事として捉えられるように、異年齢の小グループを設定して取り組む場面を設けました。
- ・同じグループのメンバーの写真を貼ったうちわを用意すると、移動した場所でも仲間を意識しやすくなりました。

◎「もっとやってみたい！」意欲がつついていくように…

- ・「マイスターシール」を用意し、シールがたまると少し難しい当番にチャレンジできる仕組みを整えました。
- ・目標をもって、楽しみながら取り組むことを大切に、子どもたちの様子をみながら環境を工夫しています。

■4歳児へのバトンタッチ



行動・発言

9月を過ぎる頃、5歳児が行っていた乳児クラスのお手伝いに4歳児も加わります。5歳児さんは、「こうやるんだよ」と4歳児さんにお手本を見せながら、台ふきの絞りを教えていました。また、乳児のエプロンを分けながら、名前のひらがなを読んで「これは、〇〇ちゃんのだよ」と伝えていました。4歳児さんは、名前を読みながら、エプロンを分けている5歳児の姿をじっと見ていました。

乳児クラスの先生から沢山褒めてもらって、自信満々、誇らしそうな顔を見せる子どもたちの姿がありました。

あそびや経験が小学校につながるように

家庭や地域で、異年齢で群れて遊ぶ場が減りつつある昨今。こうした当番活動を通して、異年齢の関わりを学ぶこと、人に貢献することの喜びを感じることは大切だと思います。自身の達成感などの欲求も満たしながら、これらのことを学んでいきます。今後も子ども達と対話しながら、新たにどんな当番をやりたいかを共に考え、小学校以降の成長の土台づくりができるようにしたいと思います。

(保育者)

小学校では、1年生の初めての給食当番は時間をかけて取り組めるようにしています。給食当番が初めてという子もいれば、本事例のように経験が豊富な子もいます。1年生のクラスの中で、経験の差をうめるためにも、できる子の達成感につなげるためにも、子ども同士が教え合うことも意識できるとよいと思います。クラスがもっと気持ちよく過ごせる場所になるように、子どもたちと一緒に学級づくりをしていきたいです。

(小学校教員)



5歳児クラスに進級した子どもたちは、生活や遊びの中で、約束事や役割などを自分たちで決めたり、年下の子どもに優しく声を掛け手伝ってあげたりする経験を通して、5歳児になったことへの自覚や自信を深めていきます。事例から、子どもたちが様々な他者との関係性を通して、次第に自律心を育んでいく様子が見えてきます。自分らしさを発揮しながら、友だちの個性を尊重しながら、「自分たちの園生活は、自分たちでつくる」。就学前に育まれた自尊心が、就学後にも繋がっていくように、子どもたちのもっている力を信じることで、それが最大限に発揮されることを共通の視点とし、連携していくことが大切です。(コーディネーター)